

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-119210

(P2007-119210A)

(43) 公開日 平成19年5月17日(2007.5.17)

(51) Int. Cl.

B 6 5 H 35/07 (2006.01)

F I

B 6 5 H 35/07

D

テーマコード (参考)

3 F 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2005-316183 (P2005-316183)

(22) 出願日 平成17年10月31日 (2005.10.31)

(71) 出願人 591097621

長井 幹雄

東京都練馬区大泉学園町5丁目27番14号

(74) 代理人 100075513

弁理士 後藤 政喜

(74) 代理人 100084537

弁理士 松田 嘉夫

(72) 発明者 長井 幹雄

東京都練馬区大泉学園町5丁目27番14号

Fターム(参考) 3F062 BA01 BF01 BG02 BG05

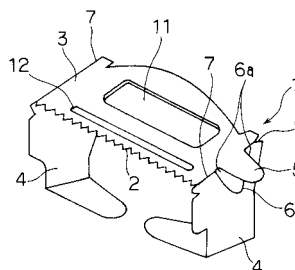
(54) 【発明の名称】 テープカッター

(57) 【要約】

【課題】 開封作業等を容易に行えるテープカッターを提供する。

【解決手段】 テープを切断する歯2を有するカッター部3と、このカッター部3に対して折り曲げられテープロールを把持する対のアーム部4とを備える折り曲げ式のテープカッター1において、カッター部3またはアーム部4にU字形切り欠き6を形成し、このU字形切り欠き6に囲まれる部位を突出させて爪部5を形成する構成とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

テープを切断する歯を有するカッタ部と、
このカッタ部に対して折り曲げられテープロールを把持する対のアーム部とを備える折り曲げ式のテープカッタにおいて、
前記カッタ部または前記アーム部に U 字形切り欠きを形成し、
この U 字形切り欠きに囲まれる部位を突出させて爪部を形成する構成としたことを特徴とするテープカッタ。

【請求項 2】

前記 U 字形切り欠きを前記アーム部に形成し、
前記 U 字形切り欠きの両端部を前記アーム部の折り曲げ部に配置したことを特徴とする請求項 1 に記載のテープカッタ。 10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、テープロールを把持する対のアーム部と折り曲げて取り付けられる折り曲げ式のテープカッタの改良に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種のテープカッタは、金属薄板をプレス機によって打ち抜いて形成され、テープを切断する歯を有するカッタ部と、このカッタ部に対して折り曲げられテープロールを把持する対のアーム部とを備える。 20

【特許文献 1】特開 2005-119868 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、このような従来のテープカッタにあっては、テープを切断する歯を有するカッタ部はテープロールのテープ巻き部に沿って延びているため、例えば、テープで包装された箱を開ける場合、テープカッタのカッタ部をテープに押し当てて切断することができず、ナイフやカッター等の道具を用いる必要があった。 30

【0004】

本発明は上記の問題点に鑑みてなされたものであり、開封作業等を容易に行えるテープカッタを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明では、テープを切断する歯を有するカッタ部と、このカッタ部に対して折り曲げられテープロールを把持する対のアーム部とを備える折り曲げ式のテープカッタにおいて、カッタ部またはアーム部に U 字形切り欠きを形成し、この U 字形切り欠きに囲まれる部位を突出させて爪部を形成する構成とする。

【発明の効果】 40

【0006】

本発明によると、例えばテープで包装された箱を開ける場合、使用者がテープロールと共にテープカッタを持って、テープカッタから突出した爪部をテープに押し当てることによりテープが切断される。こうしてテープカッタを使用して容易に開封作業を行うことができ、ナイフやカッター等の道具を用いる必要がない。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

本発明の第 1 実施形態の構成を説明する。

【0008】

図 2 に示すように、テープカッタ 1 は金属薄板をプレス機によって打ち抜いて形成され 50

るものであり、図 1 に示すように折り曲げられた状態で図示しないテープロールに取り付けられるようになっている。

【0009】

テープカッタ 1 は、テープを切断する歯 2 を有するカッタ部 3 と、このカッタ部 3 に対して折り曲げられテープロールを把持する対のアーム部 4 とを有する。

【0010】

テープカッタ 1 は、各アーム部 4 がテープロールの両側部から芯材の内周面に掛けて折り曲げられることにより、カッタ部 3 はテープロールのテープ巻き部に沿って延び、テープロールに対して回動可能に取り付けられる。

【0011】

そして本発明の要旨とするところであるが、テープカッタ 1 に U 字形切り欠き 6 を形成し、この U 字形切り欠き 6 に囲まれる部位を突出させて爪部 5 を形成する構成とする。

【0012】

本実施形態では、図 2 に示すように、U 字形切り欠き 6 をアーム部 4 に形成し、U 字形切り欠き 6 の両端部 6 a をアーム部 4 の折り曲げ部 7 に配置している。

【0013】

使用時、図 1 に示すように、爪部 5 はカッタ部 3 から連続して平板状に延び、アーム部 4 に対して略直交する。

【0014】

カッタ部 3 には折り曲げ部 7 に二対の切り欠き 8, 9 が形成され、テープロールの幅の
20 大小に応じて折り曲げ部 7 を切り欠き 8, 9 の一方に合わせて各アーム部 4 が折り曲げられようになっている。

【0015】

本実施形態では、一方の折り曲げ部 7 に U 字形切り欠き 6 の両端部 6 a を配置し、他方の折り曲げ部 7 に複数の小穴 1 9 が直線上に並んで形成される。これにより、各アーム部 4 を各折り曲げ部 7 に沿って折り曲げることが容易に行える。

【0016】

カッタ部 3 には横方向に溝状に延びる大小の凹部 1 1, 1 2 が形成され、この凹部 1 1, 1 2 によって平板状のカッタ部 3 の剛性が高められる。

【0017】

以上のように構成されて、次に作用及び効果について説明する。

【0018】

テープカッタ 1 の使用時は、各アーム部 4 がテープロールの両側部から芯材の内周面に掛けて折り曲げられることにより、テープカッタ 1 がテープロールに対して回動可能に取り付けられる。

【0019】

こうしてテープカッタ 1 がテープロールに取り付けられた状態で、テープロールから引き出されたテープを歯 2 に押し付けることにより、歯 2 に沿ってテープが切断される。

【0020】

例えば、テープで包装された箱を開ける場合、使用者がテープロールと共にテープカッタ 1 を持って、テープカッタ 1 から突出した爪部 5 をテープに押し当てることによりテープが切断される。このようにテープカッタ 1 を使用して容易に開封作業を行うことができ、ナイフやカッター等の道具を用いる必要がない。

【0021】

本実施形態では、U 字形切り欠き 6 をアーム部 4 に形成し、U 字形切り欠き 6 の両端部 6 a をアーム部 4 の折り曲げ部 7 に配置したため、テープカッタ 1 をテープロールに取り付ける際、アーム部 4 を折り曲げ部 7 に沿って折り曲げることにより、U 字形切り欠き 6 に囲まれる爪部 5 がカッタ部 3 から連続して平板状に延びる形状を維持し、折り曲げられたアーム部 4 に対して略直交して突出する。したがって、爪部 5 を折り曲げて突出させる作業を行わなくて済み、手間がかからない。

10

20

30

40

50

【0022】

また、テープカッタ1は従来のテープカッタに比べて部品数や生産工程が増加することがなく、製品のコストアップを招かないで済む。

【0023】

次に図3～6に示す他の実施形態を説明する。なお、前記実施形態と同一構成部には同一符号を付す。

【0024】

図3に示す本発明の第2実施形態は、爪部5をアーム部4から折り曲げて突出させるものであり、この爪部5は歯2に近いアーム部4の側部に沿って突出する。

【0025】

図4に示す本発明の第3実施形態は、爪部5をアーム部4から折り曲げて突出させるものであり、この爪部5は歯2から遠いアーム部4の側部に沿って突出する。

【0026】

図5に示す本発明の第4実施形態は、爪部5をカッタ部3の凹部11から折り曲げて突出させるものであり、この爪部5は凹部11の中央部から突出する。

【0027】

図5に示す本発明の第5実施形態は、爪部5をカッタ部3の凹部11から折り曲げて突出させるものであり、この爪部5は凹部11の端部から突出する。

【0028】

このように、爪部5を突出させる位置はテープカッタ1の大きさや用途によって任意に設定するが良い。

【0029】

なお、各実施形態において、各アーム部4の折り曲げ部に複数の小穴を直線上に並んで形成しても良い。

【0030】

また、テープカッタ1は金属板に限らず、例えば厚紙等の他の材料を用いて形成しても良い。

【0031】

本発明は上記の実施の形態に限定されずに、その技術的な思想の範囲内において種々の変更がなしうることは明白である。

【産業上の利用可能性】

【0032】

本発明は、例えばガムテープ等を始め、種々のテープに用いられるテープカッタに適用できる。

【図面の簡単な説明】

【0033】

【図1】本発明の第1実施形態を示すテープカッタの斜視図。

【図2】同じくテープカッタの平面図。

【図3】本発明の第2実施形態を示すテープカッタの斜視図。

【図4】本発明の第3実施形態を示すテープカッタの斜視図。

【図5】本発明の第4実施形態を示すテープカッタの斜視図。

【図6】本発明の第5実施形態を示すテープカッタの斜視図。

【符号の説明】

【0034】

- 1 テープカッタ
- 2 歯
- 3 カッタ部
- 4 アーム部
- 5 爪部
- 6 U字形切り欠き

10

20

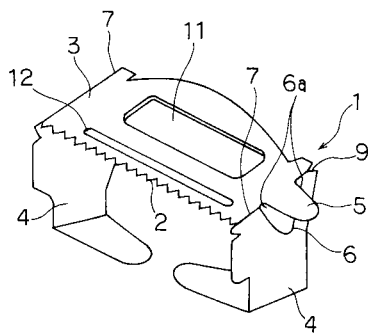
30

40

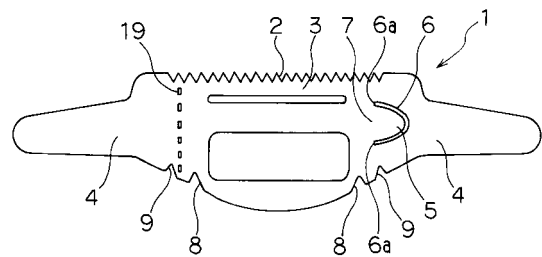
50

7 折り曲げ部

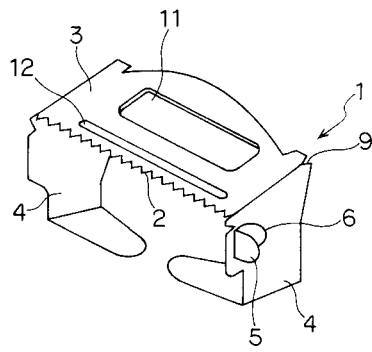
【図 1】



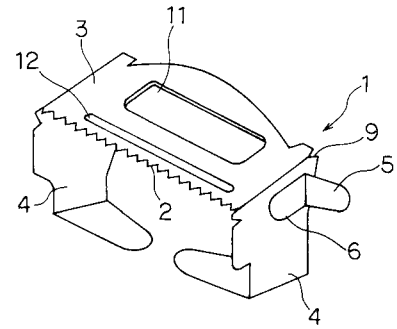
【図 2】



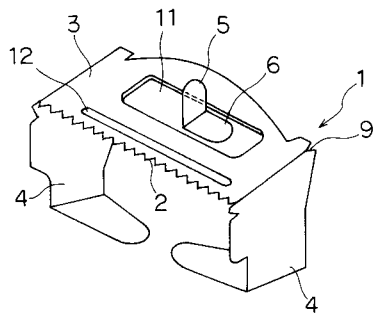
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

